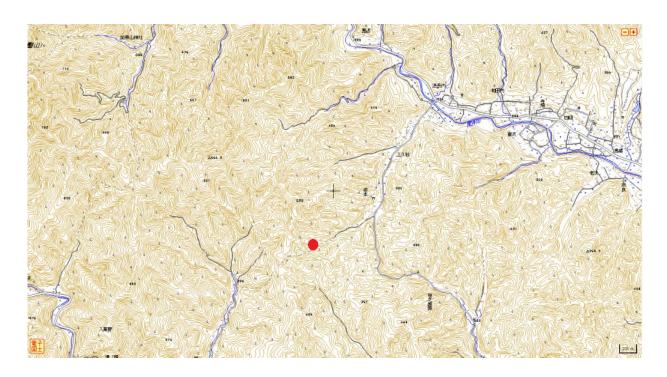
(114) 栃木県加蘇地区の第二加蘇鉱山坂本坑 この鉱山跡も、参考文献(1)を手引きに探査を行った。林道の入り口がなかなか見つけ出せなかったが、民家の庭先が、林道の入り口と一体化していた。が、現地で確認した3つの抗口跡と、参考 文献中の坑道図との対応がうまくいかないこと、道と沢と坑口の相対関係が現地の状況と、参考文献 の坑道配置図との関係もうまくいかないことがあり、少し不安である。しかし、周りにはそれ以上の 坑口跡もないので、この坑口群を坂本坑跡と判断した。文献には間違い表記もある場合もあるので。

現地への経路は次の通りである。鹿沼中央からは、240号を荒井川に沿って西行していく。法長内地区で、坂本地区へ向かうために左折する。左折してから約1.5km当たりで、右側に民家があり、その庭先が林道入り口となってる。住人の方に出会ったら、失礼の無いよう挨拶をしよう。ここ から700mほどの所に鉱山跡がある。

なを、本鉱山の主要鉱石は、灰色炭マンを主としたマンガン鉱石である。

現地には、南側の口栗野から入り、境沢に沿って北上し、林道に入る経路がある。2度ほど、この林道を探す努力をしたが、図1,2に示されている波線の境沢側からの入り口を見つけることができなかった。付近には、現在では幾つもの林道があり、且つ林道は多くに分岐している。2回とも迷っただけであった。が、坂本側からの林道を上ることで、現地に達することができた。この林道をたどっていけば、境沢側に出られるような気がするが、林道の先が未だ生きているのかどうかは分からな V,

> 探査日 2012年4月



国土地理院の地図サービスホームページより複写掲載。赤丸が鉱山跡。法長内→坂本へと道 図 1 を南下する。

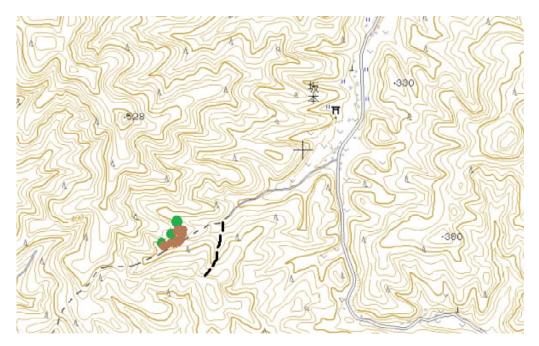


図2 図1の部分拡大図。坂本地区に、坂本の名前の脇に神社記号がある。この神社を目標の1つとしたが、道路からは確認することができなかった。緑丸が坑口跡。ベタ茶色がズリ。

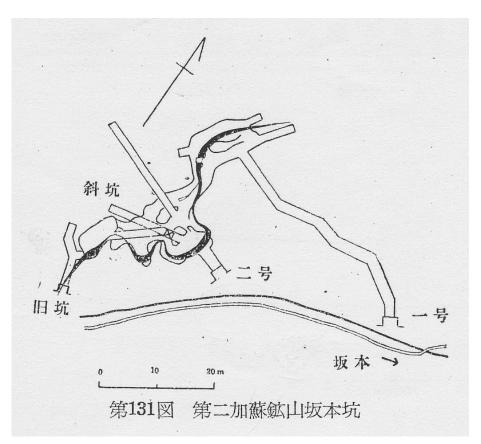


図3 参考文献(1)から複写掲載。図の下部で、左右に伸びている道と沢の上下関係が、現地の探査では、逆配置なのであるが?

鉱山跡写真



写真1上久我から、坂本へきた。右側に 民家があり、庭先が、坂本坑への林道入 り口と一体化している。林道へ車で入っ ていくのが、少し不遠慮のような気がし た。適当なところに車をおいて、徒歩で 進んだ。



写真2 林道を進んで約600m。現在、 林道は分岐している。右側に進んでいく。 100mほど先の右側斜面に、坑口群が ある。



写真3 写真の中央当たりに、岸壁がある。この岸壁下に坑口群が、横並びにある。斜面一帯はズリのようである。



写真4 坑口の1つ。

採集鉱物写真 特になし。マンガン鉱は、様々な色を持っている。ピンク色、紅色のバラ輝石とパイロクスマンガン鉱、真っ黒の酸化マンガン鉱以外、著者には未だ、マンガン鉱の識別眼がない。

参考文献(1)「日本のマンガン鉱床」、吉村豊文、マンガン研究会資料、1952年。